

令和 6 年度 自己評価報告書

(文部科学省ガイドライン・専門学校等評価基準 Ver. 4.0 準拠版)

大原和服専門学園

本書の使い方

- 1 本書は平成 25 年 3 月、文部科学省が策定・公表した「専修学校における学校評価ガイドライン」(以下、「ガイドライン」という。) に示された「項目別の自己評価表(例)イメージ」及び「自己評価における評価指標・観点・参考資料一覧表(イメージ案)」などを参考に全体を構成しました。また、評価項目は、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構(以下「機構」という。) がガイドラインに準拠して制定した「専門学校等評価基準書 Ver4.0」を適用しています。
- 2 従来の「評価項目別取組状況」に「学校の理念・教育目標」、「年度の重点目標と達成計画」、「年度の重点目標達成についての自己評価」を加えることにより、ガイドラインに示されている PDCA を活用した自己評価を進めることができるようになっています。
- 3 ガイドラインでは、「項目別の自己評価表(例)イメージ」において取組状況を 1 から 4 の評語を用いて自己評定する様式を例示しています。このことから、本書でも「評価項目別取組状況」の小項目毎に評定欄を加えました。評語の考え方の例は、以下のとおりです。

※評語の意味

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

- 4 本書は、学校関係者評価を円滑に進めるために、記述のうち「学校の理念・教育目標」、「年度の重点目標と達成計画」、「年度の重点目標達成についての自己評価」など部分的にピックアップして評価を行うことができるよう構成していますので、学校関係者評価実施においても活用できます。

※ご不明な点につきましては、機構事務局までお問い合わせください。

連絡先 03-3373-2914 info@hyouka.or.jp

教育目標と本年度の重点目標の評価

教育理念	教育目標
<p>大原和服専門学園の教育理念 「裁心縫と一生一貫を体現した物心両面にわたり豊かな人生を歩むことができる人材を育成する。」</p> <p>裁心縫 “心で裁って 心で縫う”</p> <p>当学園の創始者大原マサ先生の言葉です。相手のことを思いやりながら、和裁をしようということです。この「裁縫」は技術のことで、染色、織物、図案、着付などでも同じことが言えます。</p> <p>相手を思いやる心とは、“こうすれば喜んでくれるかな”“このままいけば相手は困ってしまうかな”など相手のことを想像する力のことです。言われたことだけをする受身の姿勢ではなく、社会から与えられた使命を感じながら前向きに取り組む姿勢の元となる心のあり方です。</p> <p>実社会で頼られる人材になるためには、自分が前向きに歩んできた経験の蓄積を通してお客様のことを想像し、技術を使うことが必要です。</p> <p>“裁心縫”は、お客様の期待以上の感動を与えるプロになるための指針です。</p> <p>一生一貫 “一生を一つの道を貫く 人から頼られる豊かな人生を歩んでほしい”</p> <p>現代社会は高度に分業化が進み、より高度な専門知識、専門技術と実践的な経験が必要になってきています。1つの道で努力し続けてきた経験の積み重ねが必要な時代になっています。つまりは継続することが大変重要になってきました。そのためには、志を持ち、絶えず謙虚に学び、努力と前向きに挑戦することが必要です。人から頼られる頼もしい人となり豊かな人生を生きるための真のプロフェッショナルになるための指針です。</p>	<p>大原和服専門学園の教育目標</p> <ul style="list-style-type: none">①思いやり・感謝の心を育てる②志を育てる③きっちりする責任感を育てる④一生懸命に取り組む姿勢を育てる⑤学習習慣を身につける⑥深く考える力・広い知識・高い技術力を身につける。⑦健康な体と健全な精神を維持するための規則正しい生活習慣を身に付けさせる。⑧時間とお金を大切にうまく活用できる力を身につけるを掲げている。 <p>大原和服専門学園の教育方針</p> <p>全員教育・全員協力</p> <p>教員だけではなく職員もそれぞれの職分において教育を担っているという自覚を持ち、技術教育に加えて生活教育も踏まえて総合的に教育を行い、かつ連携することで相乗効果を上げていくことを目指している。</p> <p>また、学生間同志の教え合い風土を醸成し、全員で協力しながら教育していくことで、限られた修業年限と教職員数の中で最大の成長が実現できる学園づくりを目指している。</p>

令和6年度重点目標	重点目標：計画の達成状況	課題と解決の方策
<p>奈良県の指針に対する制度整備を重点目標にすすめており運営体制の強化を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●理事会・評議員会の適切な運営。 ●法令に抵触しない学生数の維持（40名） ●退学者5%以内の削減 ●関連分野への就職率90%以上 <p>●職業実践専門課程の適切な運営</p> <p>産業界と連携した実践的なカリキュラム</p> <p>学校関係者評価委員会</p> <p>教育課程編成委員会</p> <p>情報公開</p> <p>企業等と連携した教職員研修</p>	<p>●私学法に抵触しない学生数の維持（40名）</p> <p>令和6年度は令和5年度の卒業生が多かったため20名となり、前年より減少することとなった。</p> <p>●退学者5%以内の削減</p> <p>令和6年度は25%となり達成できなかった。</p> <p>健康上の理由及び成績不良のためが原因であるが、学習指導の在り方も見直す必要がある結果となった。</p> <p>●関連分野への就職率</p> <p>就職は、事情により就職を延期した者を除き全員関連分野に就職することができた。体調不安がある学生が、アルバイトからの入社となり、健康状態に配慮しつつ段階的な就職ができるように就職指導をおこなった。</p> <p>全卒業生のうち就職した者83.3%</p> <p>就職した者のうち関連分野へ就職した者100%</p> <p>●職業実践専門課程の適切な運営</p> <p>職業実践専門課程の認定要件に係る諸活動については、行うことができた。</p>	<p>学生数の維持については、今後少子化がすすむため、様々な施策を講じる必要がある。抜本的に学生募集を強化するために専任の職員を採用する必要があると思われる。</p> <p>学生募集（入口対策）・学習成果向上施策や退学者対策（教育内容・教育方法）・関連分野への就職（出口対策）などの総合的な取り組みと、18歳人口だけに頼らない幅広い層の教育の在り方を考えいく必要がある。社会人の受け入れる道を開くとともに、留学生の受け入れ等検討などしていく必要があると考える。</p> <p>関連分野への就職については、学生のニーズが多様化しておりそれに対応するためには、在学中の早期からのキャリア教育の充実や関連業界と企業臨地実習などを通して連携強化をはかる必要がある。また独立開業を支援できる体制を進めていく必要がある。</p>

3 評価項目別取組状況

基準1 教育理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<input type="checkbox"/> 理念に沿った目的・育成人材像になっているか。 <input type="checkbox"/> 理念等は文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等において専門分野の特性は明確になっているか。 <input type="checkbox"/> 理念等に応じた課程（学科）を設置しているか。 <input type="checkbox"/> 理念などを実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を学生・保護者・関連業界等に周知しているか <input type="checkbox"/> 理念等の浸透度を確認しているか <input type="checkbox"/> 理念等を社会等の要請に的確に対応させるため、適宜、見直しを行っているか。	3	教育理念を言語化し、それに沿った目的人材像を整備しつつあるが、教育理念・教育目標を踏まえた具体的な目標・計画・方法までは充分に定められていない。 教職員には教育理念・教育目標を文書化した物を配布し共有を図っている。 また、学園案内にも当学園が目指す教育方針についても盛り込むようにしている。 また、新入生には入学後1週間程度オリエンテーションを実施し、当学園で目指している育成人材像を配布し、意識付けを行う様にしている。	教育理念を言語化し、それに沿った目的人材像を整備しつつあるが、具体的な目標・計画・方法までは充分に定められていない。	教育理念や諸規則をまとめた学生便覧（学習の手引き）を作成している。	自己評価報告書 学校案内 学習の手引き

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
2 育成人材像は専門分野 に関する業界等の人材 ニーズに適合している か	<input type="checkbox"/> 課程（学科）毎に、関連業界が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程、授業計画（シバラス）等の策定において、関連業界などからの協力を得ているか。	3	当学園は産業界との関係が密接であるため現在求められる人材ニーズを把握できる状況にあり対応している。 教育課程編成委員会を開催し委員会での意見を踏まえ、授業の見直しを行っている。	業界内での当学園の卒業生は一定の評価を得ているが、全体として卒業進級の要件と入学生の気質の変化や個人差があり課題である。	学生の個人差（意欲や能力）については、学科やコースの編成まで踏み込んでどのように対応するべきかを検討する必要がある。	学園資料 学則 大原和服専門学園指導計画 書作成に向けて
3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか。	4	産学協同システム、企業臨地実習等実践的なプロ教育をおこなっている。	令和6年には生活指導を行うことができた学生寮・給食制度を廃止したことにより、学園の教育内容のさらなる充実を図る必要がある。	着物業界のものづくり人材の高齢化と減少により、産業界との更なる連携をすすめていく必要がある。	学園案内 学園資料
小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
4 社会のニーズ等踏まえた将来構想を抱いているか	<input type="checkbox"/> 中期的（3～5年程度）視点で、学校の将来構想を定めているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を教職員に周知しているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	3	単年度の経営計画を中心にはすめているが、業界の変化や学校を取り巻く環境の変化が加速しているため、中期的（3年から5年）な将来構想を定めていく必要がある。	社会環境や着物業界の変化の方向を見据えた中期的な将来構想を定めてない。	令和6年度に2～3年程度先の経営計画を定め対応している。	事業計画書

基準2 学校運営

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
5 理念に沿った運営方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 運営方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針は、理念等、目標、事業計画を踏まえて定めているか。 <input type="checkbox"/> 運営方針を教職員などに周知しているか <input type="checkbox"/> 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか。	3	全体会議で問題や課題に対して対応している。	様々な点で変化に対して対応する必要があり、様々な立場の意見を集めて運営について決める必要がある。	今後も全体会議を開催し、教職員で課題を共有しながら、方針を定めていくことが必要である。	事業計画書 全体会議資料
6 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<input type="checkbox"/> 中期計画（3～5年程度）を定めているか <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標などを明示しているか。 <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制・業務分担などを明確にしているか。 <input type="checkbox"/> 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期・内容を明確にしているか	3	2～3年程の中期事業計画を定め、様々な対策を行うようしている。 事業計画と予算を作成し、理事会・評議員会で審議を経て実行している。 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期・内容は、基本的に全体会議にておこなっている。	事業環境の変化が加速しており、事業計画の推進のためには様々な外部協力者との協業が必要となってきている。	変化を見据えた中長期の計画を策定し、全体会議で教職員で課題の共有をはかっている。	事業計画書 校務分掌表 組織図

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
7 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<input type="checkbox"/> 理事会・評議員会は寄附行為に基づき適切に開催しているか <input type="checkbox"/> 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	4	理事会・評議員会は法令及び寄附行為に基づき適切に開催しており、議事録など審議内容については保管している。また法令にのっとり寄附行為の改正など適正を行っている。	特になし	特になし	理事会・評議委員会議事録 寄附行為
8 学校運営のための組織を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な事務及び教學組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか <input type="checkbox"/> 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の議事録等は、開催毎に作成しているか <input type="checkbox"/> 組織運営のための規則、規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 規則・規程等は必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか <input type="checkbox"/> 学校の組織運営に関わる事務局職員の意欲及び資質向上への取り組みを行っているか	3	教職員の入れ替わりや体制の変化により校務分掌がしつかりと定めることができず、適宜、関連する担当者で協議し、学園長の承認のもと決定している。	規則規程が整備できていないものや文書化が不充分な点もあり、改善が必要である。	今後は文章化を進めていき、教職員の入れ替えの際にスムーズな引継ぎができるようしていく。学生へは学習の手引きを作成配布し対応している。	各会議資料・議事録 評価実施規程 組織図 校務分掌表 学習の手引き

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
9 人事・給与に関する制度を整備しているか	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	2	<p>一般職員はハローワークや関係者からの紹介などにより採用している。</p> <p>教員は当学園の卒業生を中心に採用している。</p> <p>昇任・昇給について各種資格等を取得した場合昇給している。</p>	<p>和裁教員については、当学園の卒業生が基本であるため、適性のある教員を確保することが難しくなっている。</p>	<p>令和8年度に単位制への移行も視野に入れ、結婚や出産でも仕事が続けることができるよう業務を複数人で協業できる体制にするなど業務の再設計が必要である。</p> <p>また、給与規定も現在の社会情勢に対応した内容に改定が必要である。</p>	給与規定 学生募集要項
10 意思決定システムを整備しているか	<input type="checkbox"/> 教務・財務等の業務処理において、意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムにおいて、意思決定の権限などを明確にしているか	4	<p>理事会・評議員会による事業全体の意思決定及び組織図、校務分掌表にて役割を明確にしている。</p> <p>また決裁については稟議により承認をえる意思決定プロセスを整備している。</p>	特になし	特になし	寄附行為 組織図 校務分掌表

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
1.1 情報システム化に取り組み、業務の効率化業務の効率化を図っているか	<input type="checkbox"/> 学生に関する情報を適切に管理し、タイムリーな情報提供、情報を活用した学生指導が行われているか <input type="checkbox"/> 学生指導において、適切に学生情報管理システムを活用しているか <input type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか <input type="checkbox"/> システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っているか	3	<p>産学協同システムを運用するためのシステムは構築しており、実習に関する情報の管理は随時行っている。また、システム会社と保守契約を結び、システム上の不備があれば、適時対応しており、適切に管理されている。</p> <p>現在データを入力するとすぐに反映され最新情報がすぐに確認できようになっている。</p> <p>個々の学生の情報については、学園教職員で共有しているLINEグループを作成し、適時共有するようにしている。</p>	<p>学生の学習情報など教職員で共有できるデータが紙ベースで対応している。</p>	<p>学生の学習情報など教職員で共有できるデータが紙ベースで対応しているため、今後は情報の管理なども含めてデジタル対応でいく必要がある。</p>	

基準3 教育活動

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
1.2 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか	3	職業実践専門課程認定を受け教育課程の編成方針、実施方針の文書化を行い対応している。	職業教育に関する方針は明確には定めていない	当学園は、即戦力の技術教育を通した全人教育を目指しており、職業教育に関する方針を明確に定める必要がある。	教育課程編成委員会規程・位置付けに係る規程 教育課程編成の組織図
1.3 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか。 <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか	3	和裁学科の各学年の取得レベルは示されている。 着物学科については学習到達レベルが文章などにより明確化されていない。 資格・免許の取得については、奨励しており、休日の教室開放や外部団体とも連携しながら支援を行っている。	和裁学科は、学習到達レベルの水準の維持が課題である。 着物学科は、学習到達レベルの明確化が必要である。	学生気質の変化や教材環境の変化など要因があり、それぞれに対応した改善策を行う必要がある。学生気質の変化については授業方法の改善（特に基礎技術練習の強化）、教員の研修等が必要である。教材に関しては適切な教材確保に努めていく必要がある。 着物学科は、教育到達レベルを検討し、担任・講師と教育目標の認識の差が生じないような打ち合わせを行いながら、学習目標への到達に向けた学習方法の改善を継続しておこなう必要がある。	指導計画書 成績評価 成績表

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組	課題	課題の改善方策	参考資料
1.4 教育目的・目標に 沿った教育課程 を編成してい るか	<input type="checkbox"/> 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、専門科目・一般科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 修了にかかる授業時数・単位数を明示しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等適切な授業形態を選択しているか。 <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で、教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか <input type="checkbox"/> 授業科目について、授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか <input type="checkbox"/> 教育課程は定期的に見直し改定を行っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成委員会を開催しており、編成体制など規程を定め、組織だった編成ができる体制の整備をすすめている。また、教育課程編成委員会は議事録を作成し編成過程を明確にしている。 ・各授業科目は授業計画・評価を作成して対応している。 ・授業等の工夫については、各教員・講師により対応しているが、組織だった改善が不充分である。 	<p>授業等の工夫については、各教員・講師により対応しているが、改善が必要な点もあり不充分である。</p>	<p>教員・講師の連携が更に必要であり、効果的な学習結果が出た工夫などを共有し、各自が効果的な授業を行える環境を整備する必要がある。</p>	学務部会議資料 教育課程編成委員会議事録 学園資料 教育課程編成表 学則

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
15 教育課程について外部の意見を反映しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	3	教育課程編成委員会により業界の意見聴取を行っているが、在校生・卒業生・就職先等の関係者からの定期的な評価を受けることはおこなっていない。	在校生・卒業生・就職先等直接関係する関係者から教育課程について評価を受ける流れができていない	在校生には授業アンケート、卒業生・就職先には卒業後のアンケート調査を実施するなど定期的に意見を聞く流れを作る必要がある。	教育課程編成委員会名簿 教育課程編成委員会議事録 授業アンケート報告書 学校関係者評価報告書
16 授業評価を実施しているか	<input type="checkbox"/> 学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。 <input type="checkbox"/> 教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	2	定期的な授業評価を行うことができない。	授業評価が行えていない。	授業評価を行えるように取り組み、授業でのP D C Aサイクルを回し持続的な改善ができるようにしていく。	過去の授業評価資料 授業アンケート報告書
17 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 成績評価の内容や基準を、学生等に明示しているか。 <input type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等や複数人で評価するなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか。	3	各学科のディプロマポリシーを定めている。 和裁学科は、取得点数を明示しており、産学連携推進室の担当教員が確認しているため標準化されている。また、12月・2月に卒業進級判定会議を開催し、教員全員による判断を行っている。	評価のうち技術習得内容については教員の主観的な判断に委ねられている。	複数の教員もしくは定量的な評価基準で提出された課題や実技試験を確認するなど日頃から客観性・統一性を確保できるように取り組みが必要である。 着物学科は、成績内容（適切な実習課題の内容と量、技能到達レベル）の明確化が課題である。	学則 学生成績表 教務調査書 成績評価基準 実習評価基準等 成績判定会議等資料 外部コンテスト実績

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組	課題	課題の改善方策	参考資料
18 技術大会・コンクール・コンテストの出場に関する指導・支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 在校生の学習向上のため、技術大会、コンテストなど出場を奨励しているか。 <input type="checkbox"/> 技術大会、コンテストへ入賞するための指導体制は整備されているか <input type="checkbox"/> 大会への引率、補助金等の具体的な支援をおこなっているか <input type="checkbox"/> 技術大会・コンテストなど成績などの実績を把握しているか。	3	在校生の学習向上のために、技術大会、コンテスト等の出場を奨励している。 技術大会、コンテストへの入賞は本人の努力によるところが大きいが、指導においても対策を行い入賞できるように指導をおこなっている。 大会などへは、補助金なども活用しながらできるだけ参加負担が大きくならないように配慮している。 技術大会・コンテスト等の成績は記録を残し把握している。 令和6年度は和裁研究科3年生が技能五輪全国大会に出場した。	学生数の関係があり、各学年で毎年出場することが難しくなり、学生間同志で大会や検定の合格に向けた練習のノウハウの伝達が難しくなりつつある。	大会や検定の意義の理解を高め、国家検定や技能五輪等各検定や競技大会への受検のための基準やその後の練習等を含めたトータルの指導計画も定めていく必要がある。	各種大会・コンクール資料 校内掲示受賞者一覧
19 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置付けているか	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にわかるようにしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関する授業科目や取得に向けての取組の流れなど明確にしているか。	3	目標とする資格は、各学年で必須と推奨に分けて取得を目指している。 国家検定などの受験に関しては学科と実技に分けて授業において時間を設定している。 令和2年より学園で実施している着付講座が実務経験として認定を受け、和裁学科・着物学科の3年次に国家検定・着付	検定・資格・免許について各学年における学習上の位置づけや意義などが、教職員間でも認識のずれが生じている。 資格取得の学習についてはその時々の調整でおこなっており、基本学生個人の自主勉強に重きをおいている。	年間の授業計画の中で、授業の流れと資格の関係を明示し、資格取得までの講義や練習計画を明確にしていく必要がある。 各資格の取得目的や意義なども明文化し、学生に入学時や年度当初に各学年で説明	学園資料

			け技能士2級の受験ができるようになった。		し、それにのっとり授業をすすめるようする必要がある。	
小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組	課題	課題の改善方策	参考資料
20 資格・免許取得の指導体制はあるか	<input type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、指導体制や学習支援の取組を整備しているか <input type="checkbox"/> 不合格者等に対するフォローアップ体制を整備しているか	3	<p>各学年の授業の中で資格取得に向けた取り組みを行っている。</p> <p>不合格者に対しては次年度に再受験させ、練習に取り組ませている。また、学生の休日でも教職員が出勤をしている場合は、申請をすれば教室の使用を認めており、自主練習できる環境を整えている。</p> <p>令和5年度より着付け技能士の国家検定対策として着付士支援機構と連携した模擬国家検定受験対策を行っており令和6年度は全員合格することができた。</p>	特になし	特になし	校務分掌表 組織図
21 資格・免許取得率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 合格実績、合格率、全国水準との比較などを行っているか。 <input type="checkbox"/> 指導方法などと合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。	3	<p>学科試験、実技試験があり、全員合格することを目標にしているが、個々の技術力の差があるため現実的な目標設定はしていない。</p> <p>技能検定試験の受験に際し受験申込時の基準を明確に設定するなど具体的に取り組んで</p>	教員の入れ替わりなどで、継続的な検定対策ができないところもでてきており、課題である。	各資格・免許について現実に則した資格目標を設定し、効果が出た授業事例を共有するなど指導方法などの組織的改善を行う必要がある。	資格取得一覧 各検定受験案内

			いる。			
小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組	課題	課題の改善方策	参考資料
2.2 学校行事等の実施体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校行事の運営を全学的に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか	4	入学式・卒業式に関しては行事会議をもって全教職員で役割を分担しながら対応している。	特になし	特になし	入学式・卒業式資料 針供養・消防訓練資料・和シザニア資料
2.3 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<input type="checkbox"/> 授業科目を担当するために必要な、能力、資質、技術等の経験を明確にしているか。 <input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか <input type="checkbox"/> 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか <input type="checkbox"/> 教員の採用に際して、計画的に確保できるように学生及び研究員の在籍時より計画的に育成を行っているか。	4	技術力、資格、経歴等を踏まえて教員・講師を採用している。	令和6年度は講師の出産や病気のためたびたび休講になる場合があり課題であった。	研究生・研究員制度により将来指導者を志望する人材の確保と育成に取り組む必要があり、講師が休んだ場合にでもフォローアップできる体制を構築する必要がある。	教員採用資料 履歴書 免許・資格関係書類 控え

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組	課題	課題の改善方策	参考資料
2.4 教員の資質向上 への取り組みを行っているか	<input type="checkbox"/> 教員の専門性、 <u>指導力</u> を把握・評価しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか。 <input type="checkbox"/> 教員の <u>自己啓発</u> への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	3	研修計画を定め、関連団体が主催する研修会に参加するようしている。	教職員の人員配置上、研修に出ることが難しくなってきている。	ベテラン教員がOJTにおいて育成をサポートするとともに、研修に参加した者が他の教員に研修内容を共有するなど工夫が必要である。	教員研修の基本方針 教員研修等に係る規程 研修計画
2.5 教員の組織体制 を整備している か	<input type="checkbox"/> 必要な教員組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 教員組織における業務分担・責任体制は、明確に定めているか。 <input type="checkbox"/> 学科と教員・講師間で連携・協力体制を構築しているか。 <input type="checkbox"/> 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取り組みがあるか	3	専任・兼任講師を適宜配置し、教員組織は整備できている。 教職員の校務分掌は定められており、業務分担・責任体制はなされている。 校務分掌で定めている教員が、講師との連携・協力の役割を担っている	教職員数の減少に伴い校務分掌の重複が多くなってきており、講師間の連携が円滑に進んでいない場合がある。	学務部内で指導上の問題点を共有し、組織的に改善に取り組む必要がある。また、講師間で円滑にコミュニケーションがはかれるようにしていく必要もある。	校務分掌表 学園資料

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組	課題	課題の改善方策	参考資料
2.6 退学率の低減が はられているか	<p><input type="checkbox"/>中途退学者の要因、傾向、各学年における退学者数などを把握しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>指導経過を記録するなど次に活かすことができるようになっているか</p> <p><input type="checkbox"/>中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。</p> <p><input type="checkbox"/>退学に結び付きやすい傾向の学生に対する、心理面、学習面での指導体制はあるか。</p> <p><input type="checkbox"/>退学を考えていた学生が前向きに変わるなど、効果があった指導例を共有しているか。</p>	3	<p>退学の際には退学届の提出を義務づけているため、教員の所見なども記入するようになっているため退学理由を把握している。</p> <p>担任による指導記録を作成保管している。</p> <p>学生の変化に気づいた教職員が担任に連絡するなど連携し退学の低減に取り組んでいる。また、多様な価値観の学生が入学してきているため、入学オリエンテーションの強化やキャリア教育の充実など図っている。</p>	<p>1年次の退学者の比率が高く課題である。</p> <p>発達障害や精神的な疾患を抱えた学生もいるために、教職員の対応だけでは難しい場合がある。</p>	<p>授業改善とともに、研究員の活用や学生間の関わりを深めることで教職員では力バーできない指導や悩みの相談に対応できるようにする必要がある。</p> <p>精神疾患を持つ学生に対応するため専門家・保護者との連携や教職員の研修など対応が必要である。</p>	<p>退学届 退学者データ</p>

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組	課題	課題の改善方策	参考資料
2.7 学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置付けを明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか <input type="checkbox"/> 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか <input type="checkbox"/> 学外実習の教育効果について確認しているか <input type="checkbox"/> インターンシップ保険の加入など安全面の対応を行っているか	4	<p>平成28年度より企業臨地実習に取り組んでいる。企業臨地実習の際の協定書、誓約書・日報・成績評価表等を定め企業と連絡・協議をしながら対応している。</p> <p>企業臨地実習を行うことで就職に向けての意識向上等効果的である。</p> <p>学外実習の安全対応するため、危機管理マニュアルを策定した。</p> <p>また企業臨地実習参加者には全員インターンシップ保険の加入を義務付けしている。</p>	特になし	特になし	企業臨地実習資料及び学生の提出した日報・レポート

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組	課題	課題の改善方策	参考資料
28 学生相談に関する体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校生活や学習面で悩んでいる学生に対して相談できる体制が整備されているか。 <input type="checkbox"/> 病気などのため学校生活や学習面で問題を抱えている学生に対して、医療機関等と連携して対応できているか。	3	担任が学習面や学校生活面で定期的な面談をおこなっている。また、教職員が観察して気になる学生については、共有し対応するように心がけている。 精神的な病気をかかえている学生に対しては、医師の診断をふまえて保護者、教職員が連繋して指導をおこなうなど配慮して対応している	特になし	特になし	
29 保護者との連携体制を構築しているか。	<input type="checkbox"/> 保護者に対して学校の教育活動や行事に関する情報提供を行っているか。 <input type="checkbox"/> 学力不足、心理面等の問題解決にあたって保護者と適切に連携して場合によっては面談等おこない対応しているか。 <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか	3	年度当初に学習予定及び費用などを保護者に送付しており、担任より定期的に学習状況の報告なども保護者に送付している。 学校情報の発信はホームページにて記載するにとどまっている。 修学上問題がある学生については、保護者と密に連絡をとり、必要があれば面談をおこなうなど対応している。 緊急時の連絡先は教務調査書に記載しており把握している。	保護者への情報提供は必要最低限にとどまつておらず、課題がある学生の保護者との連絡が中心となっている。	保護者への学園運営に関する情報提供を工夫しておこない、学生育成に対する協力体制をさらに構築していくことも必要である。	保護者への送付文書

基準4 多様な学生の受け入れ

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
30 留学生に対する相談体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 留学生の相談などに対応する担当の教職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 留学生に対して必要があれば専門家等と連携して在籍管理等生活指導を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を専門家などとも連携しながら適切に行っているか。 <input type="checkbox"/> 留学生受け入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか。 <input type="checkbox"/> 留学生の受け入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか	NA	令和5年度留学生は在籍していない。	留学生の受け入れには、学習形態や授業時間、卒業後の就職が課題である。	令和5年に文部科学省による専修学校の専門課程における外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定制度がはじまり、卒業後の就職について緩和されるようになり、国内の18歳人口の減少が今後も続くため、留学生の受け入れについては前向きに検討する必要がある。	留学生学生募集要項 留学生受け入れガイドブック 留学生受け入れのための実践的ガイドブック
31 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	<input type="checkbox"/> 社会人が受講できるプログラムを提供しているか。	2	火曜日の10時から12時まで和裁スクールを開講している。	専門課程の特別授業を一般にも公開したことがあるが、一般的な受講生を継続的に集める方法が難しい。	きものポータルサイトを開設し、そこに一般受講生の講座を申込できるようにする必要がある。また、オンラインを活用した通信課程など、継続して学ぶことができる教育サービスを検討する必要がある。	

基準5 産業界との連携

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3.2 職業教育を行ふために産業界と連携しているか	<input type="checkbox"/> 実習の実施にあたって、教材の提供など関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 産業界と連携してセミナーや講座、イベントなど行っているか <input type="checkbox"/> 人材育成の観点から積極的に産業界と連携して、特別講師の派遣やインターンシップの受け入れ、工房見学など協力を得ているか。 <input type="checkbox"/> 産業界と連携するために業界が主催する会合等に参加するなど意識的に関係性を深める活動をおこなっているか <input type="checkbox"/> 産業界と連携して最新の業界動向などを学生の指導にタイムリーに反映できるようにしているか	4	当学園では和裁学科の実習教材を産学協同システムとして産業界の協力をえて実習授業をおこなっている。 当学園も実行委員に入っているきもの未来協議会主催きものの未来塾において講師を派遣するなど協力している。 また、希望があれば社員研修などの受け入れもおこなっている。令和6年度は丹波布技術保存会技術者協会の会員向けの講習会を開催した。 また、企業臨地実習等や企業見学などでも協力を得ている。 業界関係のイベントなどにも可能な限り参加しており、産業界内で学校の認知を上げるように活動をしている。 当学園では産学協同システム・実践的な実務家教員・業界への進路活動など様々な面で教職員が業界の動きを把握できるため、タイムリーに指導に反映できるようになっている。	特になし	特になし	きものの未来塾 案内文 企業臨地実習協定書

基準6 就職・進路

小項目	改定チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3.3 キャリア教育を実施しているか	<input type="checkbox"/> 学生が将来の仕事を考える機会としてキャリア教育を実施しているか <input type="checkbox"/> キャリア教育が効果的か見直しや改善を行っているか。	3	<p>キャリア教育は、最終学年の学生を対象として定型の講義を行い、その後は個別指導で対応している。</p> <p>平成28年度より企業臨地実習を導入し、キャリア教育に効果的であるため、より充実させていく予定である。</p>	<p>多様な将来の選択ができるように、独立開業の流れも整備する必要がある</p>	<p>卒業生のうち開業を希望する者も出てきているので、関係団体の助言も得ながら、サポートをすることでその流れを整備していく必要がある。</p>	進路指導関係資料
3.4 就職率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 就職・フリーランス等進路決定率に関する目標はあるか。 <input type="checkbox"/> 学生の就職活動を把握しているか <input type="checkbox"/> 専門分野と関連する業界などへの就職状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 企業などと共に「就職セミナー」を行うなど、就職に関して関連業界などと連携しているか <input type="checkbox"/> 就職率や就職先等のデータについて管理し把握できるようにしているか	4	<p>就職率に関する目標設定は、90%以上の確保を最低の基準としてとらえ、令和6年度卒業生の卒業生は希望者全員の関連業界への就職を達成することができた。（事情により就職活動を延期した者を除く）</p>	<p>着物業界の変化が加速しており、企業数の減少がすすむと思われる。今後は副業を含めて様々な働き方をMIXしていく時代を迎えると思われる。</p>	<p>着物の技術を活用できる業種を開拓し、今まで以上に幅広く進路指導できるように他業種の企業訪問や研究をおこない把握していくことが必要である。</p> <p>関係団体と連携した開業の支援内容を充実させ、独立開業を支援できる体制を整備する必要がある。</p>	就職活動参加願 就職活動参加証明書 進路関係各種書類 奈良県和裁技能士会会則 奈良県染織技能振興会会則

3.5 卒業生の社会的評価を把握しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生の就職先の企業等を訪問するなどして卒業後の実態や受け入れ企業の評価等を把握しているか <input type="checkbox"/> フリーランスで関連分野に関わっている卒業生の活動や評価を把握しているか	4	<p>就職担当者が適宜就職先企業と意見交換をすることで把握はしている。</p> <p>和裁職人大賞の入賞など、きもの業界の関係者より卒業生の動向について連絡が入るようになってきている。</p>	特になし	特になし	卒業生名簿
3.6 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 就職等進路支援のための体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 担任と就職担当が連携し学生情報を共有し成果が上がるよう協力しているか <input type="checkbox"/> 関連する業界等と就職に関する連携をしているか <input type="checkbox"/> 就職説明会を開催し、履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職活動に関するセミナー・講座を開講しているか <input type="checkbox"/> 就職に関する個別相談に適切に対応しているか	4	<p>校務分掌にて担当者を決めており就職担当者と担任、講師とが連携しながら学生と個別相談を行う等 就職支援を行っている。</p> <p>就職活動が公欠となる制度も整備しており参加願いと証明書の提出を義務付けしているため学生の就職活動状況は把握できる体制となっている。</p> <p>2年次に着物の流通の授業を受講し、業界にどのような役割の企業があるのか理解し、最終学年時には就職に関するキャリア教育を行っている。就職に関する個別相談は適切に対応している。また、進路として考えている企業には企業臨地実習をおこなうことで企業の仕事を実感できるようにしている。</p>	<p>学生数の減少に伴い、多く寄せられる求人に対して応えることができないため、学生数の増加が必要である。</p>	<p>産業界とも人材獲得に向けて、学園への入学増と企業への就職数の増加を図る連携が今まで以上に必要になる。</p>	校務分奏表 就職活動参加願 就職活動参加証明書 企業臨地実習協定書
3.7 開業を目指す学生に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 独立開業等を目指す学生のために卒業後技術向上を目指すことができる環境を整備しているか	3	<p>卒業後、和裁技術を高めたい卒業生に対しては研究生・研究員制度があり対応している。また一定条件をクリアすれば在宅で行うことができる外注委託加工契約も行っている。</p>	<p>開業するためには、技術以外で様々なスキルが必要であるため、その対応が不充分である。</p>	<p>関連系団体とも連携して、独立開業を支援できる体制を整備する必要がある。また、着物学科の卒業生に関する研究生・研究員制度も検討していく必要がある。</p>	研究員・委託加工契約案内文 委託加工契約書

基準7 学生支援

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取り組み等	課題	課題の改善方策	参照資料
38 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか。	<input type="checkbox"/> 学校独自の奨学金制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 学費の減免、分割納付制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 様々な外部の経済的支援制度の利用について、学生・保護者に情報提供し相談等対応しているか。	3	主に日本学生支援機構の奨学金で対応しており、令和5年度には給付型奨学金の機関要件をクリアし認定をされることができ、令和6年度も継続して認定を受けることができた。 教材費の負担軽減のため、和裁学科では産学協同システムを整備しているが、着物学科では未整備である。	就職後の企業による奨学金返還支援(代理返還)制度や地方への移住による様々な支援制度があるが情報提供が不十分である。	今後は就職する企業へ企業による奨学金返還支援(代理返還)制度告知をするなど活用できる制度情報を収集し、学生の経済的な支援が充実されるように働きかけを行う必要がある。	分割納付書類 学生募集要項
39 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校保健計画を定めているか <input type="checkbox"/> 保健室を整備しているか <input type="checkbox"/> 定期健康診断を実施して記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 有所見者への再検診について適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 健康に関する啓発及び教育を行っているか <input type="checkbox"/> 心身の健康相談に対応し、不調のある学生に対し	4	平成28年度に学校保健計画を定めており実施している。 学園周辺の病院を把握し、事務局及び本校管理人が症状に合わせて学生には適宜案内している。 保健室を配置しており、気分がすぐれない学生は事務局に申し出をし、使用できるようにしている。毎年学生及び教職員向けの健康診断を実施しており、検査結果など事務局で保管している。 健康上問題がある学生は再検診を伝えており、再検診の結果も把握す	心の病気を抱えている学生が入学してきており、対応が必要である。	心の病気を抱えている学生に対しては、保護者や専門家との連携が必要である。	学校保健計画 専門学校各種学校学生・生徒災害傷害保険 保険請求書控え 医務室使用記録ノート 健康診断結果報告書 奈良県から

	て近隣の医療機関の紹介や連携はあるか		るようとしている。 学校では健康に関する啓発及び教育は特に行っていないが、特に心の病気を抱えている学生に対しては、専門家との連携が必要である。			の健康に関する公文書
40 学生寮の設置や学校給食などの生活環境支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 遠隔地から修学する学生のために寮を整備しているか。 <input type="checkbox"/> 学生寮の管理体制、生活指導体制等は明確になっているか。 <input type="checkbox"/> 学生寮の数、利用人数、充足状況は明確になっているか。 <input type="checkbox"/> 学生寮の運営方法などを、学生等・学内の意見をふまえて適宜、運営方法の見直しや規則の改定を行っているか <input type="checkbox"/> 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図るため栄養管理をしているか。 <input type="checkbox"/> 日常生活における食事について正しい理解を深	NA	学生寮の老朽化と入学生の意識の変化もあり、令和6年5月に学生寮を閉鎖したそれにともない学校給食についても提供形態を変更し、令和6年8月より宅配業者へ変更する予定である。	変更後の学生の生活上の変化を把握する必要がある。	学生の生活上の変化を把握し、それに対し て対応する必要がある。	

<p>め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、望ましい食習慣を養うための食事に関する指導を行っているか。</p> <p><input type="checkbox"/>アレルギーなどの学生に対して配慮した給食を提供しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>食べ残しなどを軽減するため適宜、提供する給食のメニューなど見直しを行っているか。</p>				
---	--	--	--	--

基準8 卒業生支援・連携

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取り組み等	課題	課題の改善方策	参照資料
4.1 卒業生への支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生組織を組織し、活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 卒業生に学園行事の案内等学園の教育活動についての情報提供をおこなっているか <input type="checkbox"/> 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談等に対応しているか <input type="checkbox"/> 卒業後のキャリアアップのための講座や相談をおこなっているか <input type="checkbox"/> 卒業生に対して関連業界・職能団体等と連携して研修等の情報提供を行っているか。 <input type="checkbox"/> 卒業生に施設・設備を提供しているか。 <input type="checkbox"/> 卒業生に対して着物や伝統文化等の啓蒙活動などに協力をえるように働きかけをおこなっているか	3	<p>卒業生が入会する園友会を組織し、会報誌「やえさくら」を隔年1回発行を行い、卒業生・学園の活動状況や中途採用求人等知らせている。</p> <p>個別で再就職支援や、和裁委託加工契約を結び仕事の斡旋も行っている。要望があれば技術指導もおこない、学園施設や備品の貸し出しも行っている。</p> <p>卒業生から同窓会での学園への訪問希望があれば積極的に受け入れをしている。</p> <p>奈良県在住の卒業生のマイスター登録をすすめており、県内での着物技術の啓蒙活動にも協力してもらえるようにすすめている。令和2年度には卒業生の声もあり奈良県和裁技能士会、奈良県染織技能振興会を学園が中心となって設立した。</p>	<p>・講習会等園友会活動や卒業生支援等、学園内の教職員で行うには人員的に難しくなってきている。</p>	<p>今後は、卒業生の協力を得て活動を継続する必要がある。令和7年度より全国各地で仕事をしている卒業生に入学相談員として認定し、入学前の進路相談で連携することを検討している。</p> <p>奈良県和裁技能士会、奈良県染織技能振興会の活動と連携して充実させていきたい。</p>	会報誌「やえさくら」 園友会名簿 1級技能士フォローアップ研修実施内容資料

基準9 施設・設備

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取り組み等	課題	課題の改善方策	参照資料
4.2 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか。	<input type="checkbox"/> 施設・設備・機械類等は設置基準、関係法令に適合しているか。 <input type="checkbox"/> 図書室を整備し、図書は専門分野に応じ充実しているか。 <input type="checkbox"/> 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか。 <input type="checkbox"/> 施設設備のバリアフリー化に取り組んでいるか。 <input type="checkbox"/> 手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか。 <input type="checkbox"/> 施設・設備等の点検、補修等について適切に対応しているか。 <input type="checkbox"/> 施設の改築・改修等設備の更新計画を定め、適切に実施しているか。	3	学園の実習に使用する施設・設備はプロが使用するものと同水準のもので充実している。 図書室はあるが、十分に活用されていない状況である。また着物図案の図書は実習室に常時閲覧出来る様にしている。 学生の休憩・食事のためのスペースは一階の食堂を利用している。 施設内は実習教室がほとんどの為バリアフリーであるが、施設内の玄関や階段などはバリアフリー化に対応できていない状況である。 3階トイレや1階の食堂に手洗い設備があり対応している。 設備等については適時の補修となっており、支障のないよう対応しているが、中長期的な設備施設の補修計画が策定できていない。	建物の中長期的な設備施設の改修計画 (LED化や空調設備等) を進めていく必要がある。	本校舎を含めて建物全体の老朽化がすすんでいるため中期的な視点での改修計画 (LED化や空調設備等) を定める必要がある。	校舎配置図 学校案内 学園資料

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取り組み等	課題	課題の改善方策	参考資料
4.3 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか。	<input type="checkbox"/> 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動マニュアルを整備しているか。 <input type="checkbox"/> 施設・設備等の耐震化に対応しているか。 <input type="checkbox"/> 消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか。 <input type="checkbox"/> 防災（消防）訓練を定期的に実施し、記録を保存しているか。 <input type="checkbox"/> 備品の転倒防止など安全管理を徹底しているか。 <input type="checkbox"/> 教職員・学生に防災研修・教育を行っているか。	3	<p>平成28年度より消防計画を新たに作成し実施している。出来る限り施設・設備の耐震化をすすめているが予算の制約の中、対応が十分とはいえない箇所がある。</p> <p>消防署の定期的な立ち入り検査などで指摘された箇所の改修及び点検を適時行っている。</p> <p>消防訓練計画通知書を消防署に提出しており、12月に学校にて消防訓練を実施している。</p> <p>消火器、誘導灯、消火栓の点検や教職員・学生には避難訓練、消火器設備の使用訓練、DVD視聴や避難訓練を実施し、指導を行っている。</p> <p>学校安全計画を作成している。</p> <p>全学生が専修学校各種学校学生生徒災害傷害保険、海外から入学する学生にはキャリア教育共済事業団の24時間対応の保険に加入しており、学園生活中のリスクに対応して</p>	<p>予算の制約があり、設備の改修が遅れている箇所がある。</p>	<p>限られた予算の中、建物の改修等を計画的に進める必要がある。</p>	<p>避難経路図 自衛消防隊・消防訓練当日スケジュール 消防設備点検スケジュール 消防設備の整備などの履歴や見積もり・領収書関係 消防訓練計画通知書 消火器・DVD借用本数申込書</p>
4.4 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> 学校安全計画を策定しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか。 <input type="checkbox"/> ベンジン等の危険物の管理において、取扱いや管理など適切に対応しているか。	4				

いる。

セコム(株)と提携し、校舎に防犯設備を設置している。

また学校には本校管理人が常駐しており、学生が怪我などした場合は学務部、事務局と連携しながら近隣病院に搬送するなど適時対応している。

学内で使用する薬品などの管理は、管理倉庫を設置し適切に対応している。

基準 10 学生の募集と受入れ

小項目	改定チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4.5 高等学校等接続 する教育機関に 対する情報提供 に取り組んでい るか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する高校訪問やガイダンスへの参加などを実施しているか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの学校案内などを作成しているか。	3	<p>費用対効果の点からガイダンス業者が主催する校内ガイダンスには出ていないが、奈良県専修学校各種学校連合会主催の奈良県高等学校等進路指導研究協議会の進路担当教員向け説明会や専門学校見学会に参加している。</p> <p>また、当学園が主催するイベントなどにも高等学校への案内を行い、学習内容に興味を持つことができるよう、生徒へのチラシの配布など協力を依頼している。</p>	<p>着物分野への進学者が減少する中、すべての活動の費用対効果が低下しており課題である。</p>	<p>高等学校の学生がほとんど知らない分野となってきているため従来型の情報提供では入学者確保が難しくなっている。そのため、奈専各連等関連団体とも協力し、今まで以上に情報発信を強化する必要がある。</p> <p>また、服飾やデザインなど当学園への入学が見込まれる専門学科のある高校や家庭科教員への勉強会の実施等高等学校とより踏み込んだ取り組みが必要である。</p>	学園案内 学園資料 学生募集要項

小項目	改定チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4.6 学生募集活動を適切、かつ、効果的に実行しているか	<input type="checkbox"/> 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか <input type="checkbox"/> 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか <input type="checkbox"/> 志願者などからの入学相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果などについて正確にわかりやすく紹介しているか <input type="checkbox"/> 広報活動・学生募集活動において、情報管理などのチェック体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/> 体験入学・オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫などを行っているか <input type="checkbox"/> 志願者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取り入れているか <input type="checkbox"/> 進学媒体等の効果を把握し、効果的に進学媒体等の見直しを行っているか	4	<p>専修学校団体の自主規制に即した時期に出願を受付けており適切に対応している。</p> <p>奈良県専修学校各種学校連合会が指定している様式の願書を使用し、大阪府専修学校各種学校連合会が示したA0入試の指針に即した募集活動を行っている。</p> <p>入学相談は、フリーダイヤルによる電話・メール・進学イベント時の個別相談などで適宜対応している。</p> <p>現在、パンフレットを学園内で製作し、費用の削減と情報内容の改定がスムーズに行えるようにしている。</p> <p>全国から入学している当学園の特性を踏まえ体験入学会・個別見学を行い可能な限り参加機会を設けて対応している。現在、一般入試に加えて平成26年度よりA0入試をおこなっている。費用のかかる進学媒体などについては適宜見直しをしている。</p> <p>令和7年度より専門実践教育訓練給付金を和裁科・着物工芸科が受給できる学科となったため社会人説明会を開催する予定である。</p>	<p>全国的に着物分野への志願者数が減少を続けており、課題である。</p>	<p>令和4年10月には、きもの情報サイト「きものっく」を開設し、インターネットを中心として学園認知の向上の新しい取り組みを開始している。</p> <p>各種補助金も活用し、小中高校までの各段階での職業認知を高める活動をおこないつつ、基本的な広報活動をさらに強化するとともに、プレスリリースなどを活用し、広く学校認知が広げる取り組みを行っていく必要がある。</p>	学生募集要項 学校案内 学園資料 ホームページ 全国高等学校長協会家庭部会の要望書

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4.7 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 教育理念に基づいたアドミッションポリシーを定め、入学要件・方法などを明確にしているか <input type="checkbox"/> 入学選考は、公平性を確保するための合否判定体制を整備し、適切に運用しているか。	3	入学選考は、当学園の求める人物像（アドミッションポリシー）を定め A0入試は面接と書類選考、一般入試は書類選考でおこなっている。定員に満たないこともあり入学選考基準を明確には定めていないが、欠席日数、病歴などについては確認をしており、入学後の指導のため活かしている。	特になし	特になし	学生募集要項 人物評価観点
4.8 入学選考に関する実績を把握し、授業改善などに活用しているか。	<input type="checkbox"/> 学科毎の学生募集を示すデータを蓄積し、学生募集活動に活かしているか <input type="checkbox"/> 学科毎の応募者数・入学者数の予測値を測り、財務などの予算計画に活かしているか	3	学科ごとの出願名簿を保管しており、合格者数推移なども管理している。 入学者の傾向は、入学者のヒアリングやアンケートをとって把握しており、学務部との連携も行って学生情報の共有をおこなっている。 資料請求数や体験入学会等の進学イベントの参加数などデータを蓄積しており、入学者予測値を出している。 10月初期の出願者数より算出した入学者予測を予算計画に反映している。	個々の入学者傾向を面接や成績などにより把握しており、教職員への情報共有をおこなっている。	家庭環境の変化、生活環境の変化やICT教育の推進による学習環境の変化による学生の気質の変化をふまえた授業改善の取り組みをおこなう必要がある。	広報資料 ・出願者推移 ・接触者推移 ・資料請求者数推移 ・入学アンケート

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4.9 入学辞退者に対し授業料等について適切な取扱いを行っているか	□文部科学省通知の主旨に基づき、入学辞退に対する授業料の返還については、入学前であれば返還する旨を募集要項で明示している。	4	入学辞退者に対する授業料の返還については、入学前であれば返還する旨を募集要項で明示している。	特になし	特になし	学生募集要項

基準11 財務

小項目	改定チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
50 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか ■収入と支出のバランスがとれているか ■貸借対照表の翌年度繰り越消費収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか ■消費収支計算書の当年度消費収入超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか ■設備投資は過大になっていないか ■負債は返済可能な範囲で妥当な数値になっているか 	2	<p>在校生数の減少が長期的に続いている、収入の減少に対して支出を削減する状況が続いている。</p> <p>保有資産の売却による負債の削減及び固定費の削減を進めており一定の成果を上げている。</p> <p>設備投資は、現在の校舎の補修等で対応しているため過大にはなっていない。</p> <p>学生の福利厚生としておこなっていた学生寮と給食について収支の改善が見込めないため令和6年度中に閉鎖をした。</p>	<p>バランスシートの健全化はすすめているが、今後は収支改善が必要である。その解決には学生数の確保が最大の課題である。</p>	<p>専門課程の在校生数を増加させる施策を継続するためには、ネットでの情報発信を強化する必要がある。</p> <p>また、多様な年齢層の学生も受け入れていくことも必要であり、教育訓練給付制度の活用や離職者訓練の実施など具体的に進める必要がある。</p> <p>また、収益事業収入の維持をはかるため、仕立て収入単価の引き上げを順次行っている。</p> <p>また、その他公共職業訓練や国の委託事業なども積極的に行い、専門課程を支える新たな収入の確保も必要である。</p>	出願受付簿 出願関係書類 事業計画書 収支予算書

小項目	改定チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5.1 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<input type="checkbox"/> 最近3年間の収支状況（消費収支・資金収支）・財産目録・貸借対照表による財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか <input type="checkbox"/> キャッシュフローの状況を示すデータはあるか <input type="checkbox"/> 教育研究費比率、人件費比率は適切な数値になっているか <input type="checkbox"/> コスト管理を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 収支の状況について自己評価をしているか <input type="checkbox"/> 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか	3	<p>顧問税理士から学園の財政状況に関する意見を聞き、事業計画等についても関係機関の意見等反映し計画している。</p> <p>キャッシュフローの状況は、資金収支計算書を決算時にまとめており、おおよそ把握している。</p> <p>学校法人会計の改正にともない、各活動ごとに対応した学校法人会計で把握するようにしている。</p>	<p>支出の削減はすすめているが、学生数の確保など収益の改善が課題である。</p>	<p>着物業界が大きな構造変化が進んでいる中、事業環境を分析し、中長期的な視点に立った事業計画を策定し、学生数の増加に結び付く学科の編成やあらたな収益増加施策を実施する必要がある。</p>	<p>貸借対照表 消費収支計算書 資金収支計算書 事業計画書</p>

小項目	改定チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5.2 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<input type="checkbox"/> 予算編成に関して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか <input type="checkbox"/> 予算の編成過程及び決定過程は明確になってい るか	3	単年度で予算編成をおこなって いる。 予算の編成は対前年度の決算実績を踏まえ、顧問税理士の意見を聴取しながら編成している。	環境変化を予測した 2～3年の中長期的な観点での視点での事業計画書を作成する 必要がある。	社会の変化が加速しているため戦略的な視点での事業計画を立案し、2～3年程度の中期的な観点を勘案した事業計画・予算編成が必要である。	事業計画書 収支予算書
5.3 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	<input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか <input type="checkbox"/> 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど適切な会計処理を行っているか	4	毎年度終了後に適切な会計処理がなされ、監査をしておりチェック体制は整備されている。	特になし	特になし	事業計画書 収支予算書 監査報告書
5.4 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等に報告しているか <input type="checkbox"/> 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	4	監査は毎年度決算時に行っており、予算審議における理事会にも監事同席の上、審議を行っている。 監査時における改善意見に関しては報告書に記載し、適切に対応している。	特になし	特になし	監査報告書 寄附行為

小項目	改定チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5 5 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 公開が義務付けされている財務帳票、事業報告書を作成しているか <input type="checkbox"/> 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	4	私立学校法に基づき、閲覧できるよう財務帳票（財産目録・貸借対照表・収支計算書）や事業報告書・監事による監査報告書は作成している。平成27年度より職業実践専門課程の認定と令和5年度には高等教育修学支援新制度の機関要件の認定を受け、ホームページにおける情報公開に取り組んでいる。	特になし	特になし	財産目録 貸借対照表 収支計算書 事業報告書 監事による監査報告書 ホームページ情報公開ページ
5 6 適切に学納金等を算定しているか	<input type="checkbox"/> 学納金の水準は関連分野の他校との比較により学納金を算出している。 <input type="checkbox"/> 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか。	4	学納金の水準は関連分野の他校との比較により学納金を算出している。学納金など徴収する金額はすべて学生募集要項に記載している。	諸物価の高騰により安定した学園運営をおこなうために、学費の改定を行う必要がある。	令和8年度入学生から儒学選考料を徴収することとした。	学園資料 学生募集要項

基準12 法令等の遵守

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5.7 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	<input type="checkbox"/> 学校法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届などを適切におこなっているか。 <input type="checkbox"/> 学校運営に必要な規則・規定などを整備し、適切に運用しているか。	3	法令上定められた諸届については適切に対応しており、学校運営に必要な法律上整備が必要な諸規定は適宜整備している。 令和7年4月より施行された私立学校法の改正では、法令にのっとった寄附行為の変更及び新役員の選任をおこない、適切に運営をおこなっている。	諸規定は整備しているが、就業規則等見直しや令和8年4月から施行される学校教育法の改正に向けた額世億の変更を進めていく予定である。		専修学校設置認可書 寄付行為変更届控 登記事項変更届控 学則変更届 就業規則 服務規程 育児介護規則 粟議及び会議取扱い規定 パートタイム就業規則 定年に関する規定 旅費規定 自動車運営規定 慶弔規定
5.8 学校が保管する個人情報保護に関する対策を実施しているか。	<input type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱い方針・規定を定め適切に運用しているか。 <input type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取り扱いに関し、規定に定め適切に運用しているか。 <input type="checkbox"/> 学校が開設したサイトの運用にあたって情報の漏えい等の防止策を講じているか。	3	個人情報保護方針を定め、入学時に入学生、保護者に配布している。 また学園広報に関しても入学時に写真使用など同意文書を配布し同意がない学生に関しては配慮するなどしており使用する学生写真や文章についても本人が特定できないよう配慮している。 電磁記録は取扱っているが規定	個人情報保護法が導入された時期は研修を行っていたが、新人研修では行っていない。 電磁記録の保管について規定を定めていない。 教職員と学生がラインを使用し連絡する場合があるの	電磁記録の取り扱いや、SNSの留意点など規定に定める必要がある。 また新規採用教職員及び講師より個人情報の取り扱いに関する研修を実施していく必要がある。	個人情報保護に関する合格者向け案内文 個人情報保護方針

<p>■教職員・学生に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか。</p>		<p>は定めていない。学校が開設したサイトの運用では、HTTPS を取得しており資料請求などの情報が漏えいしないように安全対策をおこなっている。また、資料請求者などの情報は管理場所を定め保管している。また閲覧できるパソコンは事務所局内の者に限定しており、また情報を保管しているパソコンはネットの接続をしていないなど漏えい防止と絶えず人がいる環境に設置している。</p>	<p>でSNSの使用に関する規定を検討する必要がある。</p>	
--	--	--	---------------------------------	--

基準13 自己評価・学校関係者評価

小項目	改定チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
59 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか。	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規定などを整備し実施しているか。 <input type="checkbox"/> 実施にかかる組織体制を整備し、毎年度、定期的に全学で取り組んでいるか。 <input type="checkbox"/> 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか。 <input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか。	4	学校評価の規程を策定しており、平成31年4月1日より施行する学則に自己評価及び学校評価の規程を加え変更をおこなった。 自己評価報告書をもとに学校関係者評価委員会で審議をしている。 評価委員は、業界団体、技能団体、高等学校等関係者、卒業生等関係者を適切に選任している。 審議内容を自己評価は報告書としてまとめ、学校関係者評価委員会は議事録を作成しとりまとめ、自己評価報告書、学校関係者評価報告書をHPにて公開している。	特になし	特になし	自己点検・自己評価報告書 私立専門学校等評価研究機構ハンドブック 学校関係者評価委員会議事録 学校関係者評価報告書 ホームページ 情報公開ページ
60 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか。	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規定などを整備し実施しているか。 <input type="checkbox"/> 実施のための組織体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/> 設置課程・学科の関連業界などから委員を適切に選任しているか。 <input type="checkbox"/> 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか。 <input type="checkbox"/> 議事録を作成し、評価結果を報告書にとりまとめているか。	4	評価結果の優先順位を考え、すぐに取り組める内容については改善につなげている。			学校関係者評価委員会規程 学校関係者評価委員会守秘義務規程

基準14 情報公開

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6.1 教育情報に 関する 情報公開を 適切に行つ ているか。	<input type="checkbox"/> 自己評価の評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか。 <input type="checkbox"/> 学校関係者評価の評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか。 <input type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、教職員などの教育情報を積極的に公開しているか。	4	<p>自己評価報告書・学校関係者評価報告書・財務情報及び職業実践専門課程認定学科の情報、高等教育の修学支援新制度公開情報をHPにて公開している。</p> <p>また、学園資料に学校の概要、教育内容、教職員などの教育情報を毎年更新し、最新の情報を掲載している。</p>	特になし	特になし	学園案内 学園資料 ホームページ

基準15 地域にひらかれた学校づくり

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6.2 学校の教育資源 を活用した社会 貢献・地域貢献 を行っているか	<input type="checkbox"/> 社会人の学び直し等雇用促進事業について取り組みをしているか <input type="checkbox"/> 学校施設・設備等を地域に開放しているか <input type="checkbox"/> 高等学校・中学校・小学校等が行うキャリア教育の実施に教員を派遣するなど積極的に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 学校の実習施設を活用し高等学校・中学校・小学校等の職業教育の実施に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 地域の受講者等を対象とした「公開講座」等を開講しているか <input type="checkbox"/> 地域において伝統工芸や伝統文化の振興に関する活動を関連機関と連携して行っているか	4	<p>学園の授業で公開可能なものについては一般の方にも受講等おこなっているが継続した受講生の受け入れができるまでできていない。</p> <p>地域における学校認知を高めるために、国家技能検定和裁職種やきもの文化検定奈良会場等場所の提供など行っている。</p> <p>奈良県職業能力開発協会による若年技能者人材育成支援等事業・学齢期職業体験事業に協力して和ッザニア、小中学校における体験授業や技能フェスティバルに参加している。</p> <p>令和6年度は台風のため和ッザニアは中止となった。</p> <p>和装教育国民推進会議による奈良県内での浴衣着付授業に参加しているが、令和3年度より文化庁・伝統文化親子体験事業に取り組んでいる。</p> <p>令和6年度からは5会場へ増設した。</p> <p>奈良県染織技能振興会主催の染と織の体験教室も令和3年度より文化庁・伝統文化親子体験事業に取り組んでいる。</p>	特になし	特になし	• 奈良県職業能力開発協会・若年技能者人材育成支援等事業資料 • 和装教育国民推進会議活動報告書 • 和祭事業報告書

小項目	改定チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6.3 国際交流に取り組んでいるか	□国際交流のため、地域や業界団体・学校等から着物や伝統工芸に関する講習会などの受け入れを行っているか。	NA	当学園より積極的な働きかけは行っていないが、各団体や企業等から要望があった場合、その都度対応している。 毎年、大和国際日本語学院の夏祭り・冬祭りで留学生に対する着付けを当学園の着付け講師の運営する団体の協力を得ておこなっている。	特になし	特になし	受入プログラム資料
6.4 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	□地域や業界団体が実施する着物や伝統工芸に関するイベントを学生に紹介し、スタッフや協力者等で、主体的に参加できるようにしているか。	3	当学園では学習成果につなげるために、学生は自主的に着付け、技能振興、きもの啓蒙活動のボランティア活動に参加している。	ボランティアや技能振興活動に参加をした場合に評価をしていない。	ボランティアや技能振興活動の参加を評価することで、このような活動に参加することによる学習成果を教職員が理解するとともに、学生が自主的に参加しやすい環境をさらに整備する必要がある。	ボランティア募集告知文